

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		農山村地域における地域資源管理の次世代担い手確保のあり方に関する研究			
研究テーマ (欧文) AZ		A study on the change of generations of regional resources management in rural area			
研究氏 代表 者	カナ CC	姓)ズシ	名)ナオヤ	研究期間 B	2012 ~ 2013 年
	漢字 CB	図司	直也	報告年度 YR	2014 年
	ローマ字 CZ	ZUSHI	NAOYA	研究機関名	法政大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		法政大学現代福祉学部・准教授			
概要 EA (600字~800字程度にまとめてください。)					
<p>本研究では、人的支援プログラムを通して積極的に農山村地域を志向する若者世代が、日常の地域づくり活動の中で地域資源管理の場面に関与し、その後の定住に繋がってきた萌芽の実態を踏まえ、農山村地域における地域資源管理の担い手継承の対象を従来の発想よりも広げて捉え、以下の2つの観点から、その可能性と課題を検討した。</p> <p>①長期にわたる人的支援活動のプロセス管理のあり方：まず、地域が求めるサポートの方向性として、地域協力活動を、すでに展開している地域活動に対して新たな外部主体が関わりを持つ「中間支援活動」、地域で新たな活動や仕事を起こそうと試みる「価値創造活動」、そして、住民個人の日常生活を支える「生活支援活動」の3つに分類した。その上で、人的支援プログラムのひとつである地域おこし協力隊の活動プロセスの分析を試み、1年目は、まだ地元住民からの協力が得られない中で、「中間支援活動」や「生活支援活動」を通じて日常的に住民との接点づくりを心がけ、信頼関係を丁寧に積み重ね、それが、2年目以降に地域で新たな活動を始める「価値創造活動」への地元住民の応援や参加に繋がり、結果として、バランスの良い3つの活動が地域に不可欠なものとなっていくことが明らかになった。このような展開が可能となる場づくりを、地域、地域サポート人材、そして受入自治体担当者の3者で共有する機会が求められている。</p> <p>②若者の地域定着化を可能にする条件と課題：地域サポート活動を通して、若者世代が田舎暮らしを試みたり、農山村での仕事おこしを志す背景には、暮らしの中で地域資源に対して多面的に関わり続けながら、食や文化、景観などを維持してきた人びとの存在への気づきが加わっている。このような共感が都市住民や若者の関心と呼び、地域資源の維持管理を担う主体的な参画をもたらしている。さらに、この展開は、過少利用に陥っていた地域資源の価値を磨き上げる機会にもなり、彼らが目指す「価値創造活動」は、これまでの「働く場がないから地方に住めない」という雇用問題とは一線を画し、地域資源を活用していく収入源を複合して生計を立てていく多就業を志向している。地域おこし協力隊の場合でも、「起業」に至ったケースは7%とわずかではあるが、地域への定着を志す若者の動向については、引き続き注視し、その内実を明らかにしていく必要がある。</p>					
キーワード FA	農山村地域	地域資源管理	地域サポート人材	人的支援プログラム	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA				研究課題番号 AA							
研究機関番号 AC				シート番号							

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 ^{GB}	地域サポート人材の政策的背景と評価軸の検討							
	著者名 ^{GA}	関司直也	雑誌名 ^{GC}	農村計画学会誌					
	ページ ^{GF}	350~353	発行年 ^{GE}	2	0	1	3	巻号 ^{GD}	Vol. 32, No. 3
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
雑誌	論文標題 ^{GB}								
	著者名 ^{GA}		雑誌名 ^{GC}						
	ページ ^{GF}	~	発行年 ^{GE}					巻号 ^{GD}	
図書	著者名 ^{HA}	関司直也							
	書名 ^{HC}	地域サポート人材による農山村再生							
	出版者 ^{HB}	筑波書房	発行年 ^{HD}	2	0	1	4	総ページ ^{HE}	62
図書	著者名 ^{HA}	小田切徳美編							
	書名 ^{HC}	農山村再生に挑む							
	出版者 ^{HB}	岩波書店	発行年 ^{HD}	2	0	1	3	総ページ ^{HE}	252

欧文概要^{EZ}

Recently the youth who go to rural area continues to increase. The governments establish a policy of making the best use of supporters for local community. They understand local communities through working together with local inhabitants. And then they try to make efficient use of local resources and connect to rewarding works. But we had better not to expect easily they settle down in rural area. Firstly, it is necessary for making progress together with supporters, local inhabitants, and coordinators in local government.